

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|---------------------|------------|--|
| 事業所番号 | 3373800311 | | |
| 法人名 | 社会福祉法人 中央福祉会 | | |
| 事業所名 | グループホーム白寿荘 | | |
| 所在地 | 岡山県久米郡美咲町錦織2357番地の1 | | |
| 自己評価作成日 | 令和元年11月18日 | 評価結果市町村受理日 | |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&JigoyosoCd=3373800311-00&ServiceCd=320&Type=search |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|--------------------|--|--|
| 評価機関名 | 株式会社One More Smile | | |
| 所在地 | 岡山県玉野市迫間2481-7 | | |
| 訪問調査日 | 令和元年12月5日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・地域密着型であることを理解し、同地域在住の職員を配置し、運営に活かすことができるよう配慮している。
 ・地域密着型の特性を鑑み、地域と共生していけるよう祭りなどの交流の場にて、ふれあえる機会が増える様努力している。
 ・「ご利用者自身が出来る事」を探し、それを減らさないように支援していく努力をしている。
 ・同敷地内にある特養やショートステイなど、事業所間での交流が自由にでき、ご利用者同士の親交を深めている。
 ・季節に即した行事やそれぞれの誕生日などには、そのご利用者に即した内容を工夫し、調理室からの食事提供だけではなく、手作りの品を添えるなど工夫をしている。また、希望に応じてBBQや素麺流し、おやつ作りなどと野菜や草花の栽培を通じて、家庭的な雰囲気ができるように工夫している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホールの窓からは遠くが見下ろせ、美咲町の家々を眺めながら安心して生活できる環境にある。地域の人との交流は、行事・会議などを通して繋がっている。納涼祭には地域の人を含め総勢400人程の人と共に食事やイベントに興じている。また秋祭には神輿を出迎え、子供と一緒に声を掛け合わせて祭りの気分になり、楽しみながら過ごしている。入居者は日中ホールにてデイサービスの利用者と共に唄やゲームを楽しみ、季節になれば干し柿作りをして活動的に過ごせるよう支援されている。管理者を始め、ケアマネジャー・チームリーダーに今後の抱負を聞くことが出来た。「今の生活を維持し平穏で過ごして欲しい」「ここにずっと居たいという思いを抱けるような支援をしていく」「この事業所に入りた。と思ってもらえる事業所にしたい」等、今後に期待したい点である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | | 項目 | |
|----|--|-----------------------|----------------|----|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者の | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) |
| | | | 2. 利用者の2/3くらいが | | |
| | | | 3. 利用者の1/3くらいが | | |
| | | | 4. ほとんど掴んでいない | | |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ | 1. 毎日ある | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) |
| | | | 2. 数日に1回程度ある | | |
| | | | 3. たまにある | | |
| | | | 4. ほとんどない | | |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) |
| | | | 2. 利用者の2/3くらいが | | |
| | | | 3. 利用者の1/3くらいが | | |
| | | | 4. ほとんどいない | | |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が | 66 | 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) |
| | | | 2. 利用者の2/3くらいが | | |
| | | | 3. 利用者の1/3くらいが | | |
| | | | 4. ほとんどいない | | |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う |
| | | | 2. 利用者の2/3くらいが | | |
| | | | 3. 利用者の1/3くらいが | | |
| | | | 4. ほとんどいない | | |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う |
| | | | 2. 利用者の2/3くらいが | | |
| | | | 3. 利用者の1/3くらいが | | |
| | | | 4. ほとんどいない | | |
| 62 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が | | |
| | | | 2. 利用者の2/3くらいが | | |
| | | | 3. 利用者の1/3くらいが | | |
| | | | 4. ほとんどいない | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|--|---|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | グループホーム職員が目につきやすいように配慮し、それぞれ職員が、いつでも確認・復唱できるようにしている。 | 事務所に掲示して意識付けを図っている。また法令順守に関する研修を通して理念実践につなげている。より充実したケアを目指し、地区内出身の職員を採用するなど、地域福祉サービスの理念に繋げている。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一人として日常的に交流している | 行政主催の認知症事業者連絡会議に参画し、情報提供・交換・共有できるようにしている。また、外出等で利用者の暮らした地域へ行く事もある。納涼祭やボランティア・慰問等地域の方々に来て頂き交流を図っている。 | 法人事務所の納涼祭に地域の人を招き、総勢400人程で祭りを楽しんでいる。秋祭りには神輿や子供神輿が訪れてくれ、中庭にて一緒に掛け声を合わせる等、入居者も楽しみにしている。 | 納涼祭り等、地域と繋がりがりながら生活出来る事は入居者にとって今までの生活継続となり、回想に繋がる支援となっている。今後も全員が楽しめる機会となれることを望む。 |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 運営推進会議や家族会に参加された家族や、面会に来られた家族に対して行っている。参画している認知症事業者連絡会議を通じて、各情報を広報・広聴している。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 会議内での意見を拝聴し、そこからヒントを頂きながら、事業所の運営の状況や視点等を鑑み、次なる取り組みやケアに繋がるようにとの意識を持つようにしている。 | 市職員を含め、元入居者の家族や他職種が集まって活発に話し合っている。入居者の生活状況報告、地域交流の実際と連携について話し合っている。家族からの提案を運営に反映させている。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 困難事例等があれば、その都度電話等で相談・連絡を取っているが記録は残っていない。 | 美咲町役場保険年金課が運営推進会議に出席してくれるので、事業所の実情を把握してもらえる機会となっている。行政からは家族会(オレンジカフェ設立)の提案を受けている。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 法人全体で身体拘束についての研修を定期的に行っている。その際、参加できなかった職員は事業所内研修として、レジュメ等を熟読し、不明箇所がある場合には参加者や役職者等が説明を加えている。また、様々なシチュエーション等を鑑み、話し合いを持ち、取り組んでいる。 | 職員は身体拘束廃止に関する研修を通して、理解を深め実践に繋げている。帰宅願望に伴う不穏を抱える入居者には、対話を通して本人納得の上、落ち着いた生活が得られるよう支援している。玄関に施錠することなく日中は平穏に生活を送ってもらっている。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 法人全体の会議や各事業所での研修の機会を持ち、虐待防止について努力している。参加できなかった職員は事業所内研修として、レジュメ等を熟読し、不明箇所がある場合には参加者等が説明を加えている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 法人全体で権利擁護についての研修を行っている。参加できなかった職員は事業所内研修として、資料を熟読し、不明箇所がある場合には参加者が説明を加えている。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | ご入居契約時に、職員が重要事項説明書・契約書の説明を行っており、疑問点があれば質問を受け理解して頂けるよう説明している。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 意見箱設置や相談窓口を作り意見を聞く機会を設けると共に面会時や、運営推進会議でも意見を頂き反映させている。家族会等でもアンケートを集計し、運営やケアに反映できるように工夫している。 | 入居契約時に重要事項を説明し意見を聞いている。年1回、家族アンケートを実施し家族の意向を汲み取り、運営に反映させている。ホーム便りを発行し、事業所の行事活動等を掲載して、外部に報告している。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 事業所内での会議開催や昼休憩等で職員間で話し合い意見を出し合っている。また、随時意見や提案をもらい反映できるようにしている。また出た意見に対して事業所内会議を開き、働きやすい職場環境を目指している。 | 昼休み等、職員が集う時を利用して、研修内容をフィードバックしたり、運営活動に関する意見があれば話し合ったりしている。ケア会議において変更事項(食事形態等)があれば連絡帳に記載し、ケアの統一を図っている。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 一人一人が仕事にやりがいを持てるよう係りや担当を決め実践し、有休利用や退社時間の遵守、小さな子供のいる家庭には、事業所内保育施設の活用を勧めている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 法人より、外部の研修に参加する機会があり、会議等で研修内容の発表・報告を聴講する事で勉強できる機会を設けている。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 外部の研修やが会議に参加する事で、他の法人との交流する機会があり、その時の意見交換や会話の中でのヒント等を日頃の業務の参考にしてしている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | | 外部評価 | |
|-----------------------------|-----|--|--|--|-------------------|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 | |
| Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 入居前に管理者及び計画作成担当が面談を行い、本人と話し合う時間を設け、本人の思いや不安、考え等を聞き、安心して頂けるように努めている。 | | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 入居契約前及び契約時に、ご家族と話し合う機会を設け、要望や希望等を聞き、それに添うことができる様にしている。 | | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | グループホームの特性を説明し、本人・家族が納得された上での契約を結んでいる。不明な点は随時説明し、他の介護サービスも含む多角的な視点から最適なサービスを選んで頂ける様に話をしている。 | | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 介護や援助をするだけではなく、本人の残存能力に応じて、していたであろう家事等に参加して貰う様に努めている。また人生の先輩であるご利用者から、職員が意見やアドバイスを頂く事もある。 | | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 家族会、病院受診時、一時帰宅等で交流の機会を作り、本人の状態等を連絡し出来る事はして頂いている。 | | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 愛育委員・民政委員、地元の方の慰問、また同一施設内等でも行事や、散歩の際等に交流している。また暮らしていた地域へドライブに出かける事もある。在宅生活をされていた際のご近所の方が尋ねて来られる事もある。 | 家族会や納涼祭等は職員のもてなしの精神が発揮され、面会の機会となっている。利用者の住んでいた家にドライブで立ち寄り、馴染みの場所への支援をしている。秋祭りに神輿が立ち寄り、「わっしょい等」声を掛け合っ | | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 利用者個々の得意な面を把握し、それが活かせるような場面作りを考えている。共用スペースでの座席等を考え、利用者同士で会話が弾む様に配慮している。 | | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 退居時には他施設を紹介する等し、退居後も相談があれば対応する旨を話し、相談等があればその都度対応している。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 入居後、本人との対話やその様子を観察し、入居前の生活習慣・生活履歴を鑑みながら、職員間で話し合う機会を持ち、ご本人の意向・希望に添える様に努めている。 | 本人とコミュニケーションを密に取り、暮らし方の希望や思いを聞き取っている。日常の暮らし方や能力を観察したり、生活歴を調査したりしている。それと家族・職員からの情報を勘案し、意向の把握に努めている。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 入居前に面談等を行い、本人や家族から話を聞く様にしている。また、これまでに他のサービスを利用していた場合は担当ケアマネ・相談員からも情報も得ている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 各職員で様子や状態を観察し、それを話し合いにて共有し、本人の状態や有する力等を把握する様努めている。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 面会時等に、本人・家族の意見や要望等を聞き、介護計画の見直し等を行っている。遠方のご家族には電話やメールで要望を聞いている。 | グループホームでの生活が満足できるものとなるような計画となっている。更新時、3～6ヶ月ごとに担当者会議を開催し、モニタリングにてプランの進捗状況を確認している。必要に応じてプランの見直しをしている。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 利用者個人の状況を記録した介護日誌や、情報共有ノートを活用し、個人の体調や心身の変化について検討し、必要に応じて介護計画の見直しを実施している。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 急な受診等で、家族対応が困難な際には、状況に応じた対応を、家族と連絡を取り合い行っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|--|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 地域の方々の心遣いにて農作物や草花の差し入れがあり、その時に交流がある。また、踊りや歌謡、保育園児の慰問等を受け入れ、楽しめる環境作りを心がけている。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 普段の状態を記録し医師に報告出来る様になっている。何かあればすぐに医師に相談し対応して頂いている。 | 協力医の往診があり、24時間対応にて安心して生活が送れる様支援している。法人の看護職によるバイタルチェックにて異常の早期発見と健康管理をしている。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 普段の状態を把握し、小さな変化でも対応できるように毎日の朝夕に状態報告を行い情報を共有するようにしている。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院時には生活歴や状態の提供を行い、退院時にはカンファレンス等で、お互い情報を提供し、電話や面会等で相互に情報共有をしている。また入院中には面会に行き、状態の報告を細かく聞く努力をしている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 事業所で重度化に関する指針を作成し、入居時に家族・本人に説明している。 | 入居時、重度化に伴う事業所の対応等について説明をしている。家族の希望があれば看取りを受け入れ、終の棲家となるよう支援をしている。要介護3になれば特別養護老人ホームへの入所の申し込みを希望するかどうか家族に確認をしている。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 急変が予想される場合の対応や事故発生時についての話し合いや机上でのシュミレーションは行っているが、定期的に行っていない。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 施設消防計画に基づき行っている。 | 年2回、消防計画に基づき避難訓練を実施している。地元消防団と協力体制を築いている。施設が民家と離れ、小高い場所に位置している為、災害時の地区避難場所として提供している。常時、食料の備蓄をしている。 | 温暖化に伴い、災害がいつでも起きるか予測のつかない状態である。災害時の受け入れや対応の仕方等、万全の対策を講じられる事を期待する。 |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 個人個人の人格を尊重し、プライバシーや尊厳に配慮した声掛け介助を行っている。 | 声掛けに注意して個人の人格への配慮をしている。日中の過ごし方は自分で選択出来る様支援している。利用者の望まれる声掛けをして本人の思いや希望を尊重している。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 本人の思いや希望を、普段の会話の中から探し出し、本人のしたい事が自己決定出来るように働きかけている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 利用者一人一人のペースを尊重し、その方らしく過ごして頂けるように配慮している。また、活動を行う際も、参加されるかどうか一つ一つ確認する様にしている。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 更衣の際は、自身で選んで頂いている。行事等で化粧する事もある。アクセサリーを着用も同様に、自身に選んで頂いている。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 特養調理室より配食されるようにはなかったが、その時々によりホーム内でアレンジを加えたり、各イベント時には、職員手作りの食事やおやつを提供している。果物の皮むき等も職員と一緒にすることもある。 | 栄養士による施設全体の献立となっている。朝食に麦ごはんを取り入れ、ビタミン摂取等の栄養価に配慮されている。入利用者による干し柿作りがおやつに提供されている。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 食事・水分・塩分量・嚥下状態等個人に合わせて提供し、形態も個人に合わせている。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 義歯洗浄・歯磨き等、個人に合わせた口腔ケアを、ご自身で出来る範囲でももらいながら、出来ない方は職員が支援している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 時間やその方の体調を見計らいトイレ誘導する等、個人の状況を鑑みて、出来る限りトイレ誘導する様努めている。 | トイレは、どこにいても分かりやすい場所に設計されている。またトイレ表示やトイレマークを大きな字で表示している。水分量の配慮をして体調管理をしている。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 排便状況を把握し水分量等の配慮を行っている。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 入浴時間は決まっている為、希望通りのタイミングには行えていないが、ご本人からの要望があれば応じる事もある。 | 入浴はデイサービス利用者の都合にて午前入浴となっている。季節浴として冬至の柚子湯、5月に菖蒲湯を楽しむと共に、薬用として琵琶の葉を浴槽に入れ、皮膚への配慮をしている。入浴剤にて香も楽しんでいる。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 午睡等休みたい時には休んで頂いている。また夜間の就寝時間に関しても、その時の本人の希望等に添うようにしている。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 受診・訪問診療時には職員が立ち会う。処方された薬の説明を受け、処方箋綴りを見て皆で内容を確認し把握に努めている。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 花壇・畑の世話や、その方々の残存機能や力量に応じて生活の中で役割を見つけ、また趣味・嗜好も本人との話で探し、楽しみを持って頂ける様にしている。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | ドライブや遠足を計画実行したり、また家族と連絡を取り合い外出できるよう支援している。その他、職員と共に個人の買い物や、ホームでの必要物品等の買い物にも出かけ、外出の楽しみが持てる様に努めている。 | 個人の意向に基づき、近隣にある明神様へ参拝に出掛けている。気分転換を兼ね、広い施設の敷地を散歩している。秋祭りには中庭に出て、神輿を出迎え、子供神輿と共に楽しんでいる。秋に奥津峡へ紅葉狩りに出かけて遠足を楽しむ支援をしている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | お金は所持して頂かないようにしている。必要時には家族の方と連絡を取り合い対応している。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 携帯電話を所持し、随時連絡をされているご利用者もおられる。他の方々も希望があれば、随時対応している。また、暑中見舞いやクリスマスカードなどを作成し、利用者を書いてもらうこともある。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 共有の空間に限らず、利用者・職員と共に清掃し、清潔を保っている。また、季節の草花を飾る等で季節を感じられるように工夫している。 | 天井扇が回り、温度の調節をして、気持ち良く過ごせる様配慮している。デイサービスの利用者と共にホールにて活動的に過ごし、活気ある生活が送れる様支援している。玄関先には菊の花が満開となり、季節感を演出している。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 自由に居室やホールの出入りが出来る様にしている。それぞれの居室においても利用者の思いや使い勝手が良いように配慮している。必要に応じ席がえ等も行っている。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 家具や寝具を持参して頂く等工夫している。また在居時に使用していた愛用品も持参して頂いている。 | 居室は職員が必要以上に片づけることなく、個人意思重視の支援をしている。どの部屋もきれいに整備されている。テレビ、椅子、時計、カレンダー等を配置して、自分の部屋づくりをしている。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 利用者の方が移動しやすい様手すりや空間に配慮している。また必要に応じて、居室やトイレ等に名札や案内表をつける等の工夫をしている。 | | |

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|---------------------|------------|--|
| 事業所番号 | 3373800311 | | |
| 法人名 | 社会福祉法人 中央福祉会 | | |
| 事業所名 | グループホーム白寿荘 | | |
| 所在地 | 岡山県久米郡美咲町錦織2357番地の1 | | |
| 自己評価作成日 | 令和元年11月18日 | 評価結果市町村受理日 | |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&JigyouvoCd=3373800311-00&ServiceCd=320&Type=search |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|--------------------|--|--|
| 評価機関名 | 株式会社One More Smile | | |
| 所在地 | 岡山県玉野市迫間2481-7 | | |
| 訪問調査日 | 令和元年12月5日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

| |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・地域密着型であることを理解し、同地域在住の職員を配置し、運営に活かすことができるよう配慮している。 ・地域密着型の特性を鑑み、地域と共生していけるよう祭りなどの交流の場にて、ふれあえる機会が増える様努力している。 ・「ご利用者自身が出来る事」を探し、それを減らさないように支援していく努力をしている。 ・同敷地内にある特養やショートステイなど、事業所間での交流が自由にでき、ご利用者同士の親交を深めている。 ・季節に即した行事やそれぞれの誕生日などには、そのご利用者に即した内容を工夫し、調理室からの食事提供だけではなく、手作りの品を添えるなど工夫をしている。また、希望に応じてBBQや素麺流し、おやつ作りなどと野菜や草花の栽培を通じて、家庭的な雰囲気ができるように工夫している。 |
|---|

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

| |
|--|
| |
|--|

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | |
|----|--|-----------------------|---|----|---|-----------------------|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ | 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ | 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ | 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ | 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) | ○ | 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|--|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | グループホーム職員が目につきやすいように配慮し、それぞれ職員が、いつでも確認・復唱できるようにしている。 | | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している | 行政主催の認知症事業者連絡会議に参画し、情報提供・交換・共有できるようにしている。また、外出等で利用者の暮らした地域へ行く事もある。納涼祭やボランティア・慰問等地域の方々に来て頂き交流を図っている。 | | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 運営推進会議や家族会に参加された家族や、面会に来られた家族に対して行っている。参画している認知症事業者連絡会議を通じて、各情報を広報・広聴している。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 会議内での意見を拝聴し、そこからヒントを頂きながら、事業所の運営の状況や視点を鑑み、次なる取り組みやケアに繋がるようにとの意識を持つようにしている。 | | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 困難事例等があれば、その都度電話等で相談・連絡を取っているが記録は残っていない。 | | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 法人全体で身体拘束についての研修を定期的に行っている。その際、参加できなかった職員は事業所内研修として、レジュメ等を熟読し、不明箇所がある場合には参加者や役職者等が説明を加えている。また、様々なシチュエーション等を鑑み、話し合いを持ち、取り組んでいる。 | | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 法人全体の会議や各事業所での研修の機会を持ち、虐待防止について努力している。参加できなかった職員は事業所内研修として、レジュメ等を熟読し、不明箇所がある場合には参加者等が説明を加えている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|---|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 法人全体で権利擁護についての研修を行っている。参加できなかった職員は事業所内研修として、資料を熟読し、不明箇所がある場合には参加者が説明を加えている。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | ご入居契約時に、職員が重要事項説明書・契約書の説明を行っており、疑問点があれば質問を受け理解して頂けるよう説明している。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 意見箱設置や相談窓口を作り意見を聞く機会を設けると共に面会時や、運営推進会議でも意見を頂き反映させている。家族会等でもアンケートを集計し、運営やケアに反映できるように工夫している。 | | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 事業所内での会議開催や昼休憩等で職員間で話し合い意見を出し合っている。また、随時意見や提案をもらい反映できるようにしている。また出た意見に対して事業所内会議を開き、働きやすい職場環境を目指している。 | | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 一人一人が仕事にやりがいを持てるよう係りや担当を決め実践し、有休利用や退社時間の遵守、小さな子供のいる家庭には、事業所内保育施設の活用を勧めている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 法人より、外部の研修に参加する機会があり、会議等で研修内容の発表・報告を聴講する事で勉強できる機会を設けている。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 外部の研修や異議に参加する事で、他の法人との交流する機会があり、その時の意見交換や会話の中でのヒント等を日頃の業務の参考にしていく。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | | 外部評価 | |
|-----------------------------|-----|--|--|------|-------------------|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 | |
| Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 入居前に管理者及び計画作成担当が面談を行い、本人と話し合う時間を設け、本人の思いや不安、考え等を聞き、安心して頂けるように努めている。 | | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 入居契約前及び契約時に、ご家族と話し合う機会を設け、要望や希望等を聞き、それに添うことができる様にしている。 | | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | グループホームの特性を説明し、本人・家族が納得された上での契約を結んでいる。不明な点は随時説明し、他の介護サービスも含む多角的な視点から最適なサービスを選んで頂ける様に話をしている。 | | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 介護や援助をするだけでなく、本人の残存能力に応じて、していたであろう家事等に参加して貰う様に努めている。また人生の先輩であるご利用者から、職員が意見やアドバイスを頂く事もある。 | | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 家族会、病院受診時、一時帰宅等で交流の機会を作り、本人の状態等を連絡し出来る事はして頂いている。 | | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 愛育委員・民政委員、地元の方の慰問、また同一施設内等でも行事や、散歩の際等に交流している。また暮らしていた地域へドライブに出かける事もある。在宅生活をされていた際のご近所の方が尋ねて来られる事もある。 | | | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 利用者個々の得意な面を把握し、それが活かせるような場面作りを考えている。共用スペースでの座席等を考え、利用者同士で会話が弾む様に配慮している。 | | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|---|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 退居時には他施設を紹介する等し、退居後も相談があれば対応する旨を話し、相談等があればその都度対応している。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 入居後、本人との対話やその様子を観察し、入居前の生活習慣・生活履歴を鑑みながら、職員間で話し合う機会を持ち、ご本人の意向・希望に添える様に努めている。 | | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 入居前に面談等を行い、本人や家族から話を聞く様にしている。また、これまでに他のサービスを利用していた場合は担当ケアマネ・相談員からも情報も得ている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 各職員で様子や状態を観察し、それを話し合いにて共有し、本人の状態や有する力等を把握する様努めている。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 面会時等に、本人・家族の意見や要望等を聞き、介護計画の見直し等を行っている。遠方のご家族には電話やメールで要望を聞いている。 | | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 利用者個人の状況を記録した介護日誌や、情報共有ノートを活用し、個人の体調や心身の変化について検討し、必要に応じて介護計画の見直しを実施している。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 急な受診等で、家族対応が困難な際には、状況に応じた対応を、家族と連絡を取り合い行っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 地域の方々の心遣いにて農作物や草花の差し入れがあり、その時に交流がある。また、踊りや歌謡、保育園児の慰問等を受け入れ、楽しめる環境作りを心がけている。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 普段の状態を記録し医師に報告出来る様にしている。何かあればすぐに医師に相談し対応して頂いている。 | | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 普段の状態を把握し、小さな変化でも対応できるように毎日の朝夕に状態報告を行い情報を共有するようにしている。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院時には生活歴や状態の提供を行い、退院時にはカンファレンス等で、お互い情報を提供し、電話や面会等で相互に情報共有をしている。また入院中には面会に行き、状態の報告を細かく聞く努力をしている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 事業所で重度化に関する指針を作成し、入居時に家族・本人に説明している。 | | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 急変が予想される場合の対応や事故発生時についての話し合いや机上でのシミュレーションは行っているが、定期的に行えていない。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 施設消防計画に基づき行っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|--|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 個人個人の人格を尊重し、プライバシーや尊厳に配慮した声掛け介助を行っている。 | | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 本人の思いや希望を、普段の会話の中から探し出し、本人のしたい事が自己決定出来るように働きかけている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 利用者一人一人のペースを尊重し、その方らしく過ごして頂けるように配慮している。また、活動を行う際も、参加されるかどうか一つ一つ確認する様になっている。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 更衣の際は、自身で選んで頂いている。行事等で化粧する事もある。アクセサリーを着用も同様に、自身に選んで頂いている。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 特養調理室より配食されるようにはなったが、その時々によりホーム内でアレンジを加えたり、各イベント時には、職員手作りの食事やおやつを提供している。果物の皮むき等も職員と一緒にすることもある。 | | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 食事・水分・塩分量・嚥下状態等個人に合わせて提供し、形態も個人に合わせている。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 義歯洗浄・歯磨き等、個人に合わせた口腔ケアを、ご自身で出来る範囲でもらいながら、出来ない方は職員が支援している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 時間やその方の体調を見計らいトイレ誘導する等、個人の状況を鑑みて、出来る限りトイレ誘導する様努めている。 | | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 排便状況を把握し水分量等の配慮を行っている。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 入浴時間は決まっている為、希望通りのタイミングには行えていないが、ご本人からの要望があれば応じる事もある。 | | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 午睡等休みたい時には休んで頂いている。また夜間の就寝時間に関しても、その時の本人の希望等に添うようにしている。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 受診・訪問診療時には職員が立ち会う。処方された薬の説明を受け、処方箋綴りを見て皆で内容を確認し把握に努めている。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 花壇・畑の世話や、その方々の残存機能や力量に応じて生活の中で役割を見つけ、また趣味・嗜好も本人との話で探し、楽しみを持って頂ける様にしている。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | ドライブや遠足を計画実行したり、また家族と連絡を取り合い外出できるよう支援している。その他、職員と共に個人の買い物や、ホームでの必要物品等の買い物にも出かけ、外出の楽しみが持てる様に努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | お金は所持して頂かないようにしている。必要時には家族の方と連絡を取り合い対応している。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 携帯電話を所持し、随時連絡をされているご利用者もおられる。他の方々も希望があれば、随時対応している。また、暑中見舞いやクリスマスカードなどを作成し、利用者を書いてもらうこともある。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 共有の空間に限らず、利用者・職員と共に清掃し、清潔を保っている。また、季節の草花を飾る等で季節を感じられるように工夫している。 | | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 自由に居室やホールの出入りが出来る様にしている。それぞれの居室においても利用者の思いや使い勝手が良いように配慮している。必要に応じ席がえ等も行っている。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 家具や寝具を持参して頂く等工夫している。また在居時に使用していた愛用品も持参して頂いている。 | | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 利用者の方が移動しやすい様手すりや空間に配慮している。また必要に応じて、居室やトイレ等に名札や案内表をつける等の工夫をしている。 | | |